

## 新香橋付近

(バス車内での説明：新香橋付近)

**浅見委員** 浅見です。よろしくお願いします。川の環境と植物というのはすごく密接に関わっていきまして、例えば乾いたところには乾燥に強い植物が、湿ったところには半ば水に浸かった状態でもずっと生きていけるような植物が、あるいは水際でちょっと雨が降って水位が増すと、横に寝てしまって水の流れをやり過ごすネコヤナギとかツルヨシなどが生育しています。それに対して、大水が来るまで踏ん張っているけど、最後の最後にポキッと折れてしまいそうなエノキ、ムクノキとか、いろいろな環境に応じて植物が生えています。1個ずつの植物と環境というふうに見ていきますと、訳が分からなくなってしまって、川に緑があるなあというふうにしかならないのですが、割と似たような特定の環境に、似たような植物の何種類かが集まって生育しています。そういった何種類かの植物に目をつけて見てみますと、比較的川の環境というのが目に止まりやすくなってきます。

川を見ていきますと、まず大きくは上流・中流・下流、そして揖保川の場合ですと汽水域の河口部といった具合に、上流から下流に向かい、流れに応じて植物のまとまりの違いというのが見えてきます。お手元の緑の冊子を見てください。「加古川・揖保川河川環境整備マニュアル」という本の8ページに上流部・中流部・下流部・河口部に特徴的な植生というのが載っています。

今まで見てきました上流部ですと、一番代表的なのがツルヨシとネコヤナギです。ツルヨシの草原に混じって1mぐらいの低木がポツポツと混じっていましたが、あれがネコヤナギです。それがあるのが上流部の特徴です。

それに対しまして、今から行きます新香橋のところは中流部になります。中流部を一番代表している植生はカワラヨモギ群落です。これは一体どんなところにあるかと言いますと、次の10ページを見ていただきますと、今上流から下流に向けて縦断的に植生というのは変わるといってお話をしました。もう1つ大きな違いというのは今度横断的な違いというのがありまして、水に近いところ、毎日の水の量のちょっとした差で変わる不安定帯、それから一週間に1度とか、月に2~3回降る水で隠れたり、水をかぶったり、頭を出したりするようなところ、それから年に1~2度大きな出水があった時に水をかぶる半安定帯、それからめったに水をかぶらない安定帯。そんなふうな大きな違いがあります。これから行く新香橋のところで見たいのは半安定帯の部分です。このページの一番左端に砂礫地カワラヨモギ群落と書いてます。実は、揖保川もそうなのですが、全国の他の地域でも、この砂礫地のカワラヨモギ群落というのがすごく減ってきています。ここはカワラという名前の付く生き物が生きているのが特徴で、カワラヨモギ・カワラハハコ・カワラサイコ・カワラナデシコ、こういった植物が揖保川には全部揃ってました。今から行きます新香橋のところにもカワラハハコという植物が数年前の調査では確認されていたんですが、とうとうなくなってしまいまして、2~3年前の調査では1株も見つかっていません。最後までカワラハハコが残っていた、もしかしたら絶滅した場所かも知れないということ

ろです。兵庫県がレッドデータブックというのを作っておりまして、貴重な生物としてどんなものがあるかということを書いたリストがあります。ここの新香橋のところはカワラハハコがあった、もしくは今ももしかしたら残っているかも知れないということで、レッドデータブックのCランクに入ることになっています。

今も言いましたように、このあたりには「カワラ」という名前が付いたものがいっぱい生えています。あと場所によってはカワラバツタとかもいます。これらが生息している場所がどういうところかといいますと、丸い石、大体 20~30 センチの石ころが一面に敷き詰められています。その石ころの隙間に砂が詰まっています、少々出水では石ころが動かない、砂によって固められていてなかなか動かないというのが特徴です。このあたりは細く帯状の川原が上流側も下流側も伸びていますが、さてそれを見つけられますでしょうか。この下のところに右も左も河原に石ころが見えると思います。実は石が動かないほどキュウキュウに間に砂が詰まっています。この辺りというのは多分年に1回か2回しか水に浸からないと思います。もうちょっと堤防寄りのところにこういう場所があると思います。それからこちらの一番水寄りのところは石が動くような環境で、もうひとつ向こうのワダチのあたりぐらいになると、砂が詰まって動きにくいと思います。向こうに白い轍の跡が横断的に走っているのが分かるでしょうか。あの更に上流側にちょっと白っぽくて疎らに草が生えているあたりは礫原になると思います。ここが兵庫県レッドデータブックのCランクに位置付けられて、ちょっと見守っていかうということになっています。カワラハハコというのは、太平洋側ではこの揖保川のみで確認されており、このあたりが今のところ最後に確認されたところでした。以上です。